

**平成30年度 北海道立総合博物館協議会  
アイヌ民族文化研究センター専門部会 議事概要**

会議名	平成30年度 北海道立総合博物館協議会 アイヌ民族文化研究センター専門部会
開催日時	平成30年7月10日（火） 14時00分～16時00分
開催場所	北海道博物館 講堂
出席委員	澤田一憲専門部会長、大島稔委員、児島恭子委員、酒井奈々子委員、 関根真紀委員、中村吉雄委員
欠席委員	なし
出席者 (博物館、本庁)	【博物館】石森館長、山中副館長、中村アイヌ民族文化担当副館長、小川 学芸副館長兼アイヌ民族文化研究センター長、川田総務部長、舟山学 芸部長、右代学芸主幹、甲地研究主幹、会田学芸主査、遠藤研究職員 【本庁】佐藤主幹、高橋主幹、今主査（以上、文化振興課）、栗原主幹（ア イヌ政策課）
傍聴者	なし

**【議 題】**

**(1) 報告事項1 平成30年度第1回北海道立総合博物館協議会実施報告**

・資料1に基づき、6月8日に開催した、平成30年度第1回北海道立総合博物館協議会の議事概要について、事務局から報告した。

**(2) 報告事項2 アイヌ民族文化研究センター平成29年度事業実績及び平成30年度事業実施計画**

・資料2及び3に基づき、アイヌ民族文化研究センターの平成29年度の事業次席及び平成30年度事業実施計画について、小川アイヌ民族文化研究センター長から報告した。

・主な意見・質疑応答は以下のとおり。

(1) アイヌ文化紹介小冊子『ポンカンピソシ』について

(委員) 小冊子は館内で配布しているだけか、学校にも送っているのか。

(事務局) 各巻の初版発行時に道内の各学校に1冊ずつ送っている。だが、各校1冊ずつなので、引き続き周知を図りたい。

(2) 研究紀要のリポジトリ化について

(委員) 第1回協議会での質疑応答にあった、「リポジトリ化」とはどういうことか。予算もかかるのではないか。

(事務局) 現在のようにPDFファイルで研究紀要の各論稿が読めるだけでなく、検索の便宜等のためにリポジトリ化が有効だという趣旨の指摘だと受け取っている。国で管理運営しているサービスを利用することで、予算と作業負担ができるだけかからないことを前提に、検討を進めたい。

### (3) 報告事項3 百年記念施設の継承と活用について

・資料4に基づき、百年記念施設の継承と活用に関する、これまでの経緯、今年度の取り組み等について、環境生活部文化振興課 佐藤主幹から報告した。

・主な意見・質問は以下のとおり。

#### (1) 名称の問題について

(委員) 「百年記念塔」「百年記念施設」という名称に対しては、建設当初から批判があったはずだが、そのまま維持してきているのか。名称についての議論はされているのか。

(事務局) 検討はしたいと思う。

(委員) 50年前からある議論なので、その議論の歴史を踏まえてほしい。

#### (2) 百年記念塔について

(委員) 倒壊の危険性があるなら、立入禁止措置は取るべき。

(委員) 個人的には、維持にかかる費用が莫大なので撤去がよいと考える。

#### (3) アイヌ民族文化研究センター専門部会における報告の意義について

(委員) 百年記念施設とアイヌ民族文化研究センターはどのように関係するのか。

(事務局) 百年記念施設の見直しは、「北海道の歴史を自治体がどのように捉えて発信するか」ということにつながる。特に当館アイヌ民族文化研究センターはそれに関わるレファレンスも少なくないため、研究センターにとっても、特に注意深く関わらせていただいている問題である。

#### (4) 「北海道の文化」について

(委員) 資料の最初のページに「世界に誇れる本道独自の自然・歴史・文化を発信していく」とあるが、ここでいう「世界に誇る本道独自の文化」とは何であると考えているのか。そこを示すことによって、「文化」を、既存の「百年記念施設」ではどのように位置づけ、何をどのように発信するのかを検討できるのではないか。

(事務局) これから新たな展開を考えていかなければと考えている。

#### (5) 開拓の村でのアイヌ文化の発信

(委員) 開拓の村には、「開拓以前」の建物が残されずに、「開拓以降」の建造物のみを残して、北海道の歴史・文化を語っている点に、50年前の発想の問題があった。「開拓」という言葉の捉え方など、北海道は抜本的に発想を換える必要があるのではないか。

#### (6) 北海道におけるアイヌ文化の発信

(委員) 「開基100年」から50年経ち、アイヌを語らなければ北海道を語れないような時代になっており、アイヌ文化を広く周知する方策に力を入れ

てもらいたい。特に博物館には、それに応えてもらいたい。

(委員) 国がアイヌ民族を先住民族と認めたところから、大きく流れ・状況が変わってきている。北海道はその認識が足りないのではないか。

#### (4) 今後のスケジュールについて

・資料5に基づいて、平成30年度の協議会スケジュールについて事務局から説明した。

#### (5) 意見交換・情報交換

主な意見・質問は以下のとおり。

##### (1) 民族共生象徴空間との関係について

(委員) 2020年に白老に民族共生象徴空間ができるが、北海道博物館と白老との関わり・連携について教えてほしい

(事務局) 基本的には、連携しつつ独自に頑張る部分は頑張りたいと考えている。

(委員) 民族共生象徴空間が白老にできることで、白老の一極集中になり、アイヌ関係の他館・他地域は集客が減ることを懸念している。

(委員) 白老まで来たお客様に、札幌や平取町、阿寒湖など他の地域まで足を延ばしてもらえるような方策が必要か考える。